

1 1. *Ornithobacterium rhinotracheale*の関与が疑われた鶏ブドウ球菌症

玖珠家畜保健衛生所

○山崎窓・児玉彬・安藤紀子・羽田野昭

【はじめに】

鶏ブドウ球菌症の原因菌である*Staphylococcus aureus*(以下*S. aureus*)は自然界に広く分布しており、健康な人や動物の常在菌として存在している。主に日和見感染により様々な病態を示しブロイラーでは脚異常が問題になることが多い。一方、*Ornithobacterium rhinotracheale*(以下ORT)は単独感染ではほとんどの場合軽症だが混合感染により重篤化するといわれている。今回、管内肉用鶏農場においてORTの関与が疑われた*S. aureus*による化膿性骨髄炎が発生したのでその概要について報告する。

【発生概要】

発生農場は、飼養羽数42,000羽、鶏舎は平飼いで開放10棟、鶏種はチャンキー、敷料には発酵鶏糞を利用。2020年6月9日、約34日齢の鶏群に脚弱を呈する鶏が農場に散在しているとの通報を受け、翌日立入りを実施。稟告では5月27日から、1～3羽で座りこんで立ち上がらない症状の鶏がみられた鶏舎が10鶏舎中8鶏舎あり、翌28日には全鶏舎でみられたが、急激な死亡羽数の増加は認められなかった。

【材料及び方法】

発生農場：脚弱、起立不能を呈した34日齢の衰弱鶏7羽について定法に従って細菌学的検査、ウイルス学的検査、病理学的検査、血清学的検査を実施。

発生農場及び他農場：ORT浸潤状況検査を実施。

【成績】

剖検所見：5/7羽に左右の股を開脚させた時に大腿骨の頭頸部が脆くなり容易に折損し、7羽すべてに共通して足蹠や足指に痂皮形成を確認。細菌学的検査：7/7羽で*S. aureus*を分離。病理学的検査：5/5羽で化膿性骨髄炎、2/7羽で大腿骨髄にグラム陽性球菌を観察。ORT浸潤状況検査：発生農場6/10羽擬陽性。関連農場2/10羽陽性、2/10羽擬陽性。他農場全羽陰性(0/10羽)。以上の結果から「ORTの関与が疑われた鶏ブドウ球菌症」と診断。分離された*S. aureus*について薬剤感受性試験を実施し、アミノグリコシド系、ニューキノロン系で感受性を確認。

【対策】

薬剤感受性試験の結果を元に薬剤を投与したが、顕著な効果がみられず、飲水の消毒濃度の変更、オールアウト後の物品の洗浄、消毒並びに環境消毒の徹底を指導。

【まとめと考察】

ORTの関与を疑う*S. aureus*による化膿性骨髄炎と診断。*S. aureus*によって趾蹠の外傷が趾蹠皮膚炎となり、ORTの混合感染により重症化し化膿性骨髄炎を発症したと推察。現在農場では新規の発症鶏はみられないが、今後とも、趾蹠の外傷の直接的な原因となる敷料をはじめとした鶏舎環境の改善や、飼養管理の向上を目的とした指導を行い、ORTの関与も考慮し鶏ブドウ球菌症等の発生予防に努めていきたい。